

第3章 住民の意識

3-1 調査の概要

本計画の策定にあたり、本町の現状や課題に対する住民の皆様からの率直なご意見等をお聞かせいただき、第6次上ノ国町総合計画前期基本計画の総括や今後の施策検討に活用するために、基礎調査として住民アンケートを実施しました。

その結果の主要な設問結果については、「4-2 調査結果の概要」のとおりです。

《調査の概要》

調査名称	第6次上ノ国町総合計画後期基本計画策定のための上ノ国町まちづくりアンケート調査
調査地域	上ノ国町全域
調査対象	町内在住の18歳以上の男女
調査方法	郵送配付・回収
有効対象者数	1,500名
抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
調査期間	令和6年8月23日～9月10日
有効回収数	542票（郵送回収：424票、ウェブ回収118票）
有効回収率	36.1%

※1 「割合」は、各項目の回答数を回答総数で除し、小数第2位を四捨五入、小数第1位までの表示としています。このため、割合の合計が100%にならない場合があります。

※2 設問には1つのみ答える単数回答（SA）と、複数回答（MA）があり、複数回答の設問では表記の割合の合計が100%を超える事があります。また、複数回答の質問の「全体」は、回答総数ではなく回答対象者総数を表示。また、各選択肢の「割合」は、回答数を回答総数ではなく回答者総数で除しており、「割合」の「全体」は100%を超えるため斜線表示としています。

※3 回答者を限定する設問（特定の設問において特定の選択肢を回答した方を対象としているため）は、回答者数が調査対象者数を下回ります。

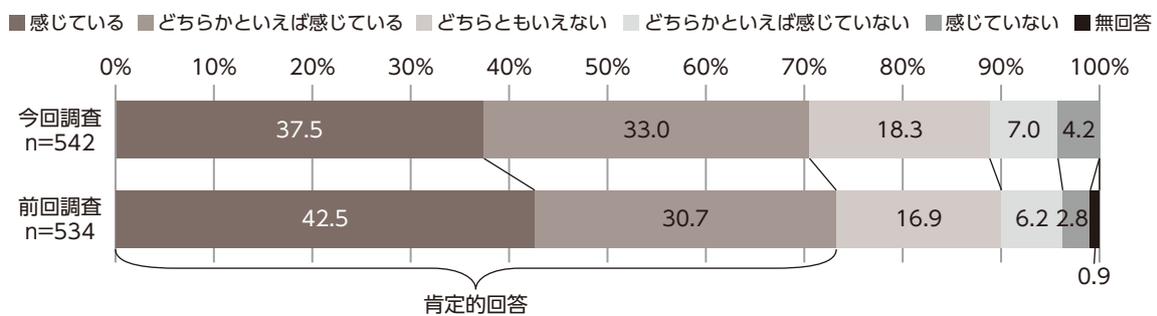


3-2 調査結果の概要

① まちへの愛着度

愛着を「感じている」と回答した人が37.5%と最も高く、次いで「どちらかといえば感じている」が33.0%で続き、これらを合わせた“愛着を感じている”という人が70.5%となっています。前回調査よりも、まちへの愛着度はやや減少しています。

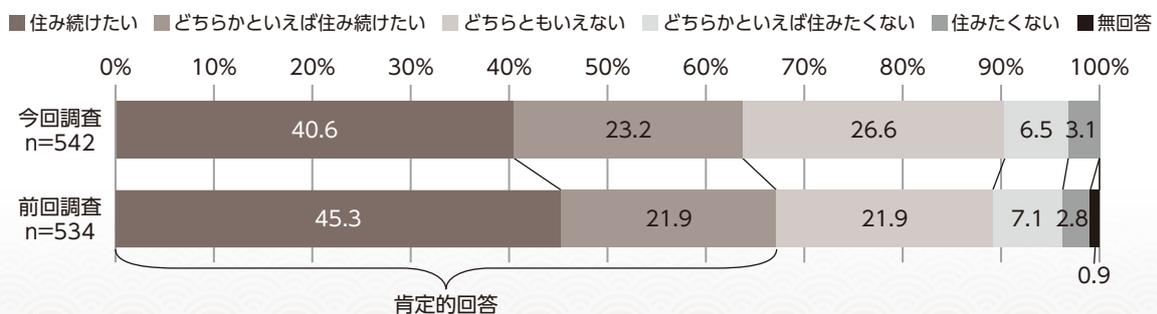
「自分のまち」としての愛着をどの程度感じていますか



② 今後の定住意向

今後も本町に「住み続けたい」と回答した人が40.6%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が26.6%となっています。「住み続けたい」と「どちらかと言えば住み続けたい」を合わせた“住み続けたい”という人は63.8%となっています。前回調査よりも、定住意向はやや減少しています。

あなたは、今後も上ノ国町に住み続けたいと思いますか

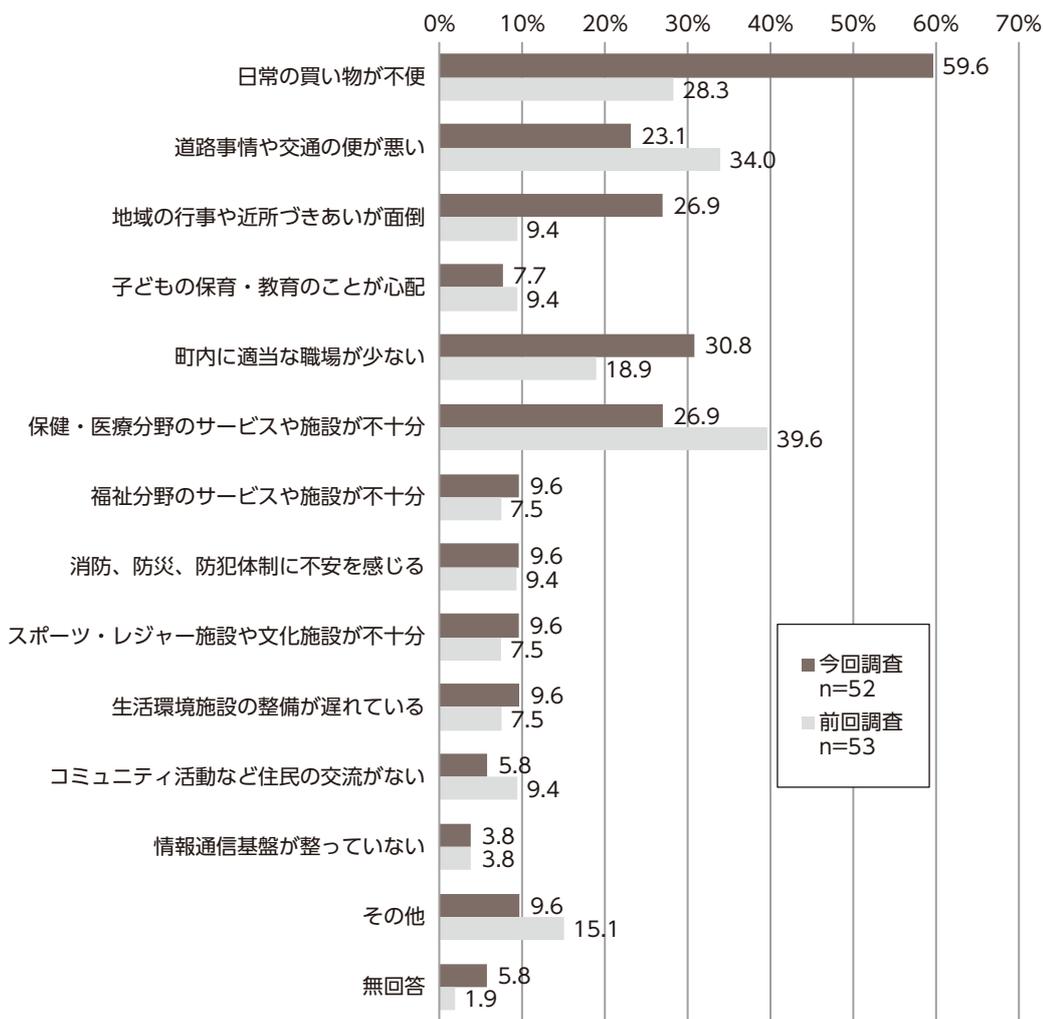


③ 定住意向の阻害要因（住みたくない理由）

②の定住意向の設問において、「住みたくない」と「どちらかといえば住みたくない」に○をつけた人に、住みたくない理由をたずねたところ、「日常の買い物が不便」が59.6%と最も高い割合で、次いで「町内に適当な職場が少ない」が30.8%で続いています。

前調査よりも、「日常の買い物が不便」が大きく割合を増加させています。次いで、「地域の行事や近所づきあいが面倒」も増加しています。

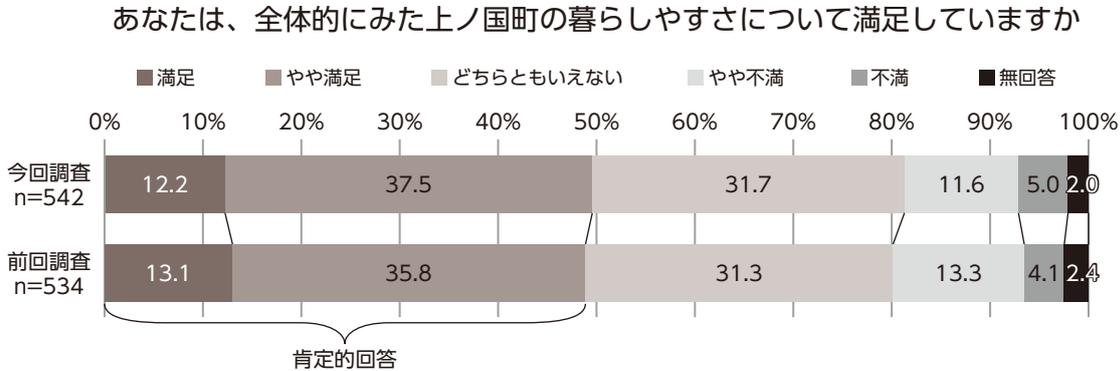
住みたくないと思う主な理由はなんですか





④ まちの暮らしやすさ（全体の満足度）

まちの暮らしやすさに「やや満足と」と回答した人が37.5%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が31.7%で続いています。「満足」と「やや満足」をあわせた“まちが暮らしやすい”という人が、49.7%となっています。



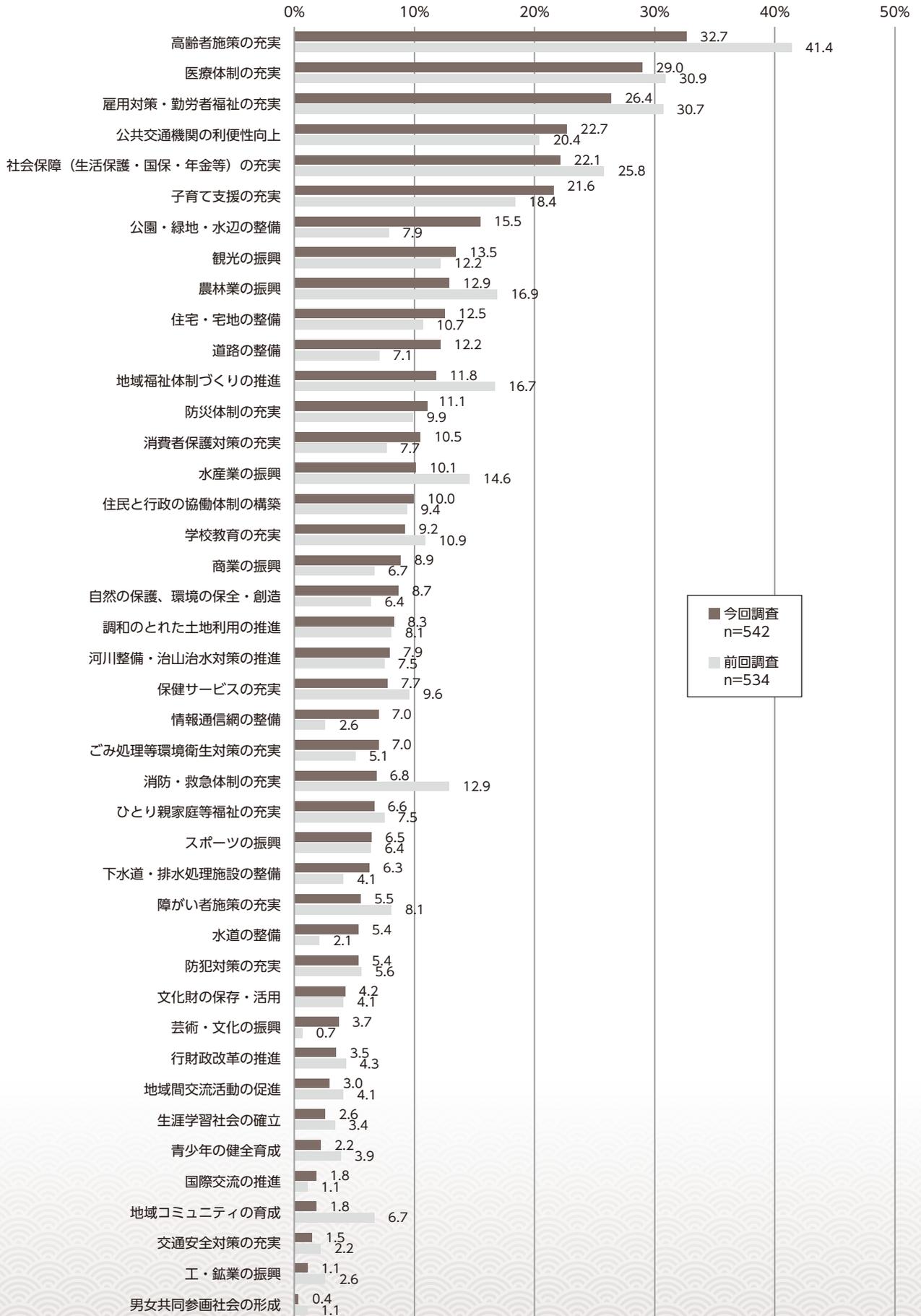
⑤ 町の行政のなかで、今後、特に力をいれてほしいと思うことについて

今後、特に力をいれてほしいと思うことについてたずねたところ、「高齢者施策の充実」が32.7%と最も高く、次いで「医療体制の充実」が29.0%、「雇用対策・勤労者福祉の充実」が26.4%と続いています。

前回調査よりも増加した項目は、「公園・緑地・水辺の整備」(+7.6ポイント)が最も増加し、次いで「道路の整備」(+5.1ポイント)が増加しています。

<特に力をいれてほしい項目>

特に力をいれてほしいと思う項目 (上位5項目)	今回調査 割合 (%)	前回調査 割合 (%)	経年増減 ポイント	
高齢者施策の充実	32.7	41.4	-8.7	↓
医療体制の充実	29.0	30.9	-1.9	↓
雇用対策・勤労者福祉の充実	26.4	30.7	-4.3	↓
公共交通機関の利便性向上	22.7	20.4	2.3	↑
社会保障（生活保護・国保・年金等）の充実	22.1	25.8	-3.7	↓





⑥ 今後のまちづくりの特色について

今後のまちづくりの特色をたずねたところ、「人にやさしい保健・医療・福祉の充実した健康・福祉のまち」(48.5%)が最も高い割合となっています。次いで「快適で安全・安心な居住環境の整備を優先する快適住環境のまち」(24.4%)、「子育て環境や子どもの保育・教育環境が充実した子育て・教育のまち」(24.0%)が続いています。

前回調査と今回調査で回答割合を比較すると、「快適で安全・安心な居住環境の整備を優先する快適住環境のまち」が最も差があり、増加(+6ポイント)しています。その他は基本的に大きな差はみられず、前回と同様の傾向となっています。

<今後のまちづくりの特色について>

